

AQUOS L

SHV37

取扱説明書

- ・本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
- ・免責事項については、『ご利用にあたっての注意事項』をご参照ください。

2016年11月第1版

発売元:UQコミュニケーションズ株式会社
UQモバイル沖縄株式会社

製造元:シャープ株式会社
TINSJB237AFZZ

お問い合わせ先番号

■ 商品に関するお問い合わせ

UQお客様サポートセンター 一般電話・携帯電話などから
0120-929-818(通話料無料)

受付時間:9:00~18:00 年中無休

- ・受付時間を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- ・IP電話(050-XXXX-XXXX)からは接続できない場合があります。

■ 電話機の修理に関するお問い合わせ

端末故障受付センター 一般電話・携帯電話などから
0120-959-558(通話料無料)

受付時間:9:00~21:00 年中無休

- ・受付時間を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- ・IP電話(050-XXXX-XXXX)からは接続できない場合があります。

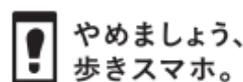
■ ホームページからのお問い合わせ

- ・機器に関するご相談、お問い合わせ
UQコミュニケーションズ株式会社(<http://www.uqwimax.jp/>)



モバイル・リサイクル・ネットワーク
PHS OUI/ACC

携帯電話・PHS事業者は、環境を保護し、貴重な資源を再利用するためにお客様が不要となってお持ちになる電話機・電池・充電器を、ブランド・メーカーを問わず(♻️)マークのあるお店で回収し、リサイクルを行っています。



やめましょう、
歩きスマホ。



キケン!
水ぬれ充電

濡れた状態での充電は、
異常な発熱・焼損などの
原因となり大変危険です。

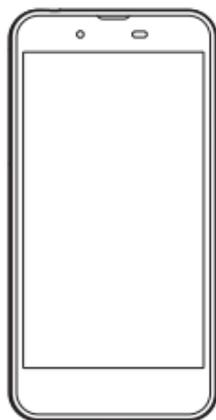
ごあいさつ

このたびは、「AQUOS L SHV37」(以下、「SHV37」または「本製品」と表記します)をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

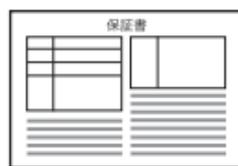
ご使用前に本体付属の『取扱説明書』『ご利用にあたっての注意事項』『設定ガイド』をお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようお手元に大切に保管してください。

同梱品一覧

ご使用いただく前に、下記同梱物がすべてそろっていることをご確認ください。



本体



保証書

- 取扱説明書
- ご利用にあたっての注意事項
- 設定ガイド

以下のものは同梱されていません。

- microSDメモ리카ード
- ACアダプタ
- イヤホン
- microUSBケーブル

- 指定の充電用機器(別売)をお買い求めください。

◎ 電池は本製品に内蔵されています。

◎ 本文中で使用している携帯電話のイラストはイメージです。実際の製品と違う場合があります。

取扱説明書について

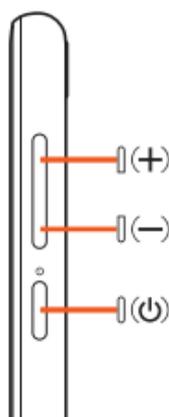
最新の『取扱説明書(本書)』『ご利用にあたっての注意事項』『設定ガイド』は、下記ホームページで確認できます。

http://www.uqwimax.jp/support/mobile/guide/manual_download/

本書の表記方法について

■ 掲載されているキー表示について

本書では、キーの図を次のように簡略化しています。



■ 項目／アイコン／キーなどを選択する操作の表記方法について

本書では、操作手順を以下のように表記しています。

表記	意味
ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[プロフィール]	Feel Home画面をスライド/フリックしてアプリシートに切り替えます。続けて「 設定」「プロフィール」の順にタップします。
(2秒以上長押し)	を2秒以上長押しします。

※ タップとは、ディスプレイに表示されているキーやアイコンを指で軽くたたいて選択する動作です。

■掲載されているイラスト・画面表示について

本書はUQ mobile Multi IC Card 01を取り付けた状態の画面表示・操作方法となります。

記載されているイラストや画面は、実際のイラストや画面とは異なる場合があります。また、画面の一部を省略している場合がありますので、あらかじめご了承ください。

本書の表記では、画面の一部のアイコン類などは、省略されています。



実際の画面

本書の表記例

- 本書では本体カラー「ブルー」の表示を例に説明しています。
- 本書では縦表示からの操作を基準に説明しています。横表示では、メニューの項目／アイコン／画面上のキーなどが異なる場合があります。
- 本書ではFeel Homeでの操作を基準に記載しています。「ホーム切替」などでホームアプリを切り替えた場合は、操作が異なる場合があります。
- 本書に記載されているメニューの項目や階層、アイコンはご利用になる機能や条件などにより異なる場合があります。
- 本書では「microSD™メモ리카ード(市販品)」「microSDHC™メモ리카ード(市販品)」および「microSDXC™メモ리카ード(市販品)」の名称を「microSDメモ리카ード」もしくは「microSD」と省略しています。
- 本書に表記されている金額は特に記載のある場合を除きすべて税抜です。
- 本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。なお、本文中では、™、®マークを省略している場合があります。

マナーも携帯する

■こんな場所では、使用禁止！

- ・自動車や原動機付自転車、自転車などの運転中は、音楽や動画を視聴しないでください。自動車・原動機付自転車運転中の携帯電話の使用は法律で禁止されています(自転車運転中の使用も法律などで罰せられる場合があります)。また、歩行中でも周囲の交通に十分ご注意ください。周囲の音が聞こえにくく、表示に気を取られ交通事故の原因となります。特に踏切、駅のホームや横断歩道ではご注意ください。
- ・航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。

■周りの人への配慮も大切

- ・映画館や劇場、美術館、図書館などでは、発信を控えるのはもちろん、着信音で周囲の迷惑にならないように電源を切るか、マナーモードを利用しましょう。
- ・街中では、通行の邪魔にならない場所で使いましょう。
- ・携帯電話の画面を見ながらの歩行は大変危険です。歩行中または急に立ち止まったの通話や操作は控えましょう。
- ・新幹線の車中やホテルのロビーなどでは、迷惑のかからない場所へ移動しましょう。
- ・通話中の声は大きすぎないようにしましょう。
- ・電車の中など周囲に人がいる場合には、イヤホンなどからの音漏れに注意しましょう。
- ・携帯電話のカメラを使って撮影などする際は、相手の方の許可を得てからにしましょう。
- ・カメラ機能をご使用の際は、一般的なモラルを守りましょう。
- ・満員電車の中など混雑した場所では、付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性があります。事前に本製品の「機内モード」へ切り替える、もしくは電源を切っておきましょう。
- ・病院などの医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止と定めている場所では、その指示に従いましょう。

緊急警報アプリを使用する

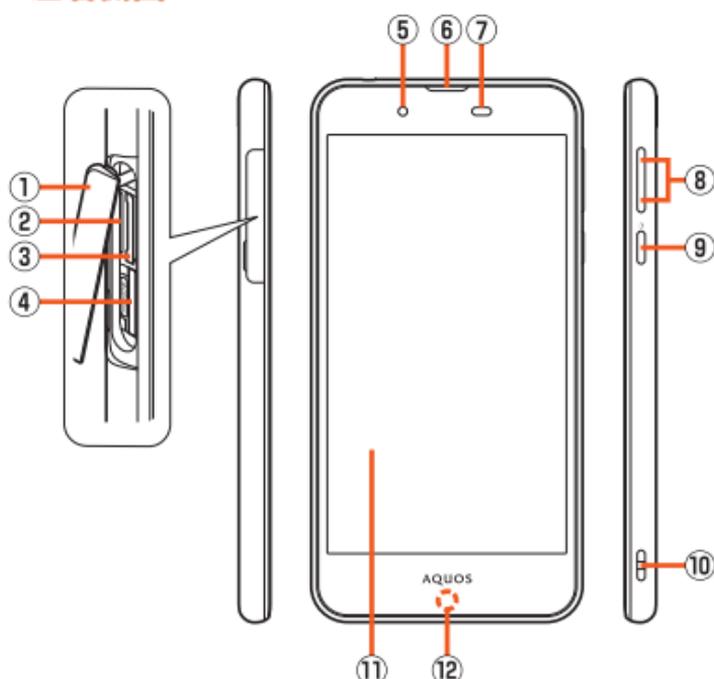
1 ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[もっと見る]→[緊急警報]

2 各項目を設定

◎ 緊急警報アプリは津波警報には対応していません。

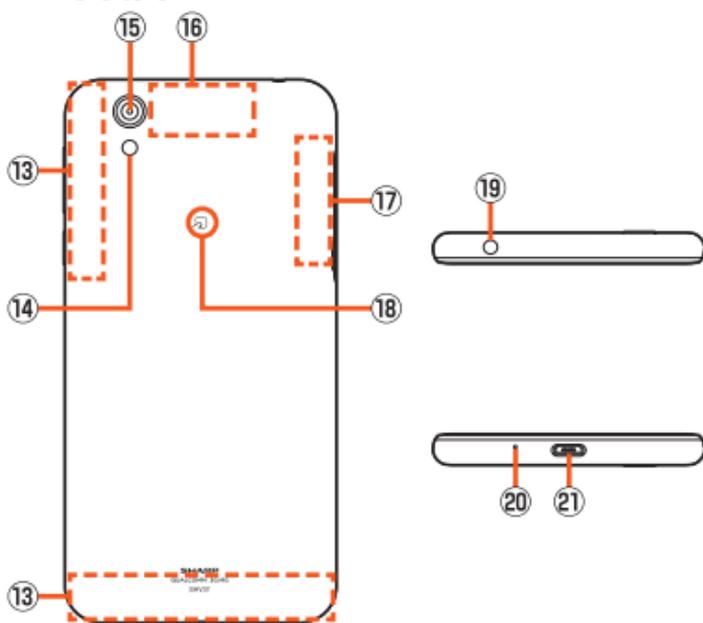
各部の名称と機能

正面／左右側面



- ① UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモ리카ードカバー
- ② IMEIトレイ
本製品のIMEIを確認できます。
- ③ UQ mobile Multi IC Card 01トレイスロット
- ④ microSDメモ리카ードスロット
- ⑤ インカメラ(レンズ部)
- ⑥ 受話口(レシーバー) / スピーカー
- ⑦ 近接センサー / 光センサー
近接センサーは通話中にタッチパネルの誤動作を防ぎます。
光センサーは周囲の明るさに合わせて、ディスプレイの明るさを調整します。
- ⑧ \llcorner (+) \llcorner (-) 音量UP / DOWNキー
音量を調節します。
ロック画面で \llcorner (-)を長押しすると、マナーモードの設定 / 解除を切り替えられます。
- ⑨ \llcorner (\odot) 電源キー
画面を点灯 / 消灯します。
長押しすると、電源ON / OFFや再起動ができます。
- ⑩ ストラップ取付口
- ⑪ ディスプレイ(タッチパネル)
ディスプレイの表面には保護フィルムが貼られています。市販の保護フィルムをご利用の場合は、保護フィルムをはがしてください。
- ⑫ 充電 / 着信ランプ
お買い上げ時は、就寝時(23:00~6:30)の間、自動的にランプの明るさを抑えます。

■ 背面／上下側面



- ⑬ 内蔵アンテナ
- ⑭ モバイルライト
- ⑮ アウトカメラ(レンズ部)
- ⑯ GPSアンテナ
- ⑰ Wi-Fi®/Bluetooth®アンテナ
- ⑱ マーク

おサイフケータイ®やNFC機能利用時にこのマークをリーダー／ライターにかざしてください。

- ⑲ イヤホンマイク端子
- ⑳ 送話口(マイク)
- ㉑ 外部接続端子

共通ACアダプタ05(O501PWV)(別売)やmicroUSBケーブル(市販品)、周辺機器接続用USBケーブル(市販品)などの接続時に使用します。共通ACアダプタ05(O501PWV)(別売)やmicroUSBケーブル(市販品)などを接続すると、接続機器の磁気が地磁気センサーに影響し、アプリケーションによっては正常に動作しないことがあります。ケーブル類を外してご使用ください。

◎ 本製品の背面カバーは取り外せません。無理に取り外そうとすると破損や故障の原因となります。

◎ 本製品の電池は内蔵されており、お客様による取り外しはできません。強制的に電源を切る場合は、「強制的に電源を切る」(▶P.9)をご参照ください。

UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモ리카ードカバーについて

◎ UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモ리카ードカバーを強く引っ張ったり、無理な力を加えると破損の原因となりますのでご注意ください。

IMEIトレイについて

- ◎ IMEI(端末識別番号)は端末1台ずつに割り当てられた固有の識別番号です。IMEIトレイを引き出して本製品のIMEIを確認できます。
- ◎ IMEIは修理依頼やアフターサービスなどで必要な情報です。
- ◎ IMEIトレイを本体から取り外すことはできません。無理な力がかからないよう取り扱いにはご注意ください。
- ◎ 本製品を操作してIMEIを確認することもできます。
ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[端末情報]→[端末の状態]→[SIMのステータス]と操作して、IMEI欄を確認

ディスプレイ(タッチパネル)について

◎ 対応する市販のフリップカバーを装着すると、フリップカバーの開閉によってディスプレイの表示／非表示を切り替えることができます。装着したフリップカバーは、斜めに閉じるとディスプレイの表示が消えないことがあります。

近接センサー／光センサー、受話口(レシーバー)／スピーカー、送話口(マイク)について

- ◎ 本製品は受話口とスピーカーを兼用しています。ハンズフリー通話に切り替えたときや通話が終了したときに、耳でスピーカーから大きな音が鳴らないよう、徐々に設定した音量まで上がります。
- ◎ 近接センサー／光センサーの上にシールなどを貼ると、正しく動作しない場合がありますのでご注意ください。
- ◎ 受話口(レシーバー)／スピーカー、送話口(マイク)をシールや指などでふさぐと性能を維持できなくなりますので、ご注意ください。

内蔵アンテナ、Wi-Fi®/Bluetooth®アンテナ、GPSアンテナについて

◎ アンテナは本製品に内蔵されています。通話中や通信中はアンテナを手でおおわないでください。通話／通信品質が悪くなる場合があります。

おサイフケータイについて

◎ NFC(Type A/B)対応のSIMカードを利用する一部クレジット決済サービス(PayPass、payWave、J/Speedy)には対応しておりません。

イヤホンマイク端子について

◎ スイッチ付イヤホンマイクやイヤホンマイクの種類によっては使用できない場合があります。

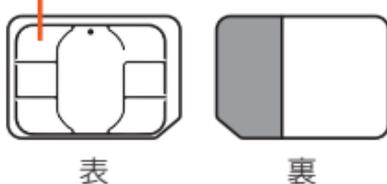
UQ mobile Multi IC Card 01 を利用する

UQ mobile Multi IC Card 01 について

UQ mobile Multi IC Card 01 にはお客様の電話番号などが記録されています。

UQ mobile Multi IC Card 01

IC(金属)部分



◎ UQ mobile Multi IC Card 01 着脱時は、必ず共通ACアダプタ05 (0501PWV) (別売) などのmicroUSBプラグを本製品から抜いてください。

UQ mobile Multi IC Card 01 を取り付ける

UQ mobile Multi IC Card 01 の取り付けは、本製品の電源を切ってから行ってください。

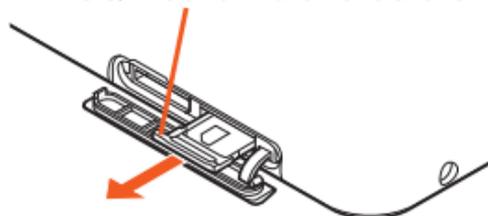
1 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを開ける

ミゾに指先をかけて手前に引き出し(①)、矢印の方向に回転させて開いてください(②)。



2 UQ mobile Multi IC Card 01 トレイに指をかけ、まっすぐにゆっくりと引き出す

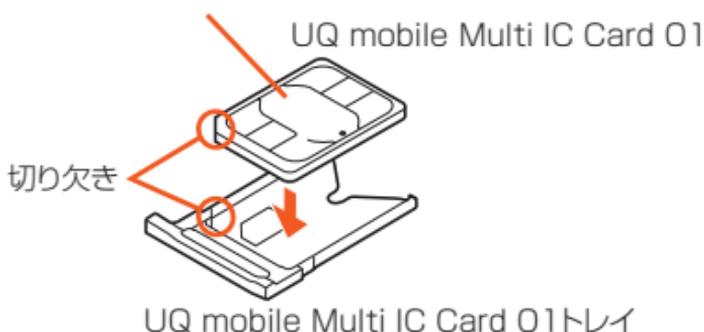
UQ mobile Multi IC Card 01 トレイ



3 UQ mobile Multi IC Card 01 トレイにUQ mobile Multi IC Card 01 を装着する

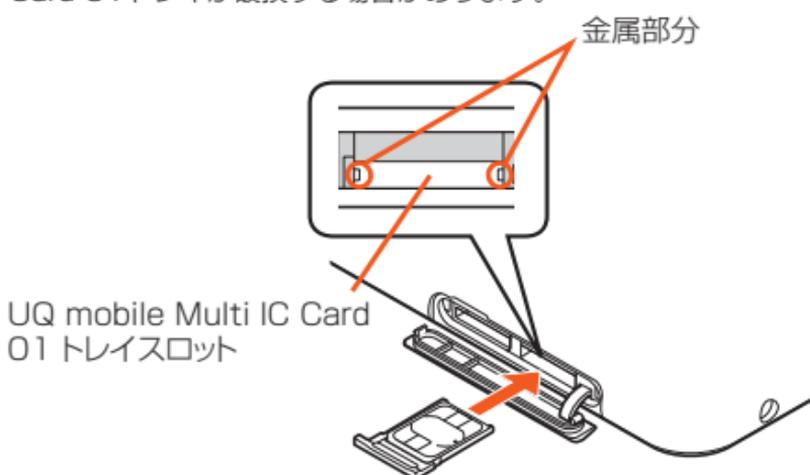
UQ mobile Multi IC Card 01 とUQ mobile Multi IC Card 01 トレイの切り欠き方向に注意して、ゆっくりと装着してください。

IC(金属)部分を上に



4 UQ mobile Multi IC Card 01トレイスロットの両側の金属部分に引っ掛からないように注意して、UQ mobile Multi IC Card 01トレイをUQ mobile Multi IC Card 01トレイスロットにゆっくり差し込む

UQ mobile Multi IC Card 01トレイスロットの位置をよく確認し、UQ mobile Multi IC Card 01トレイの向きに注意して、矢印の方向に奥まで差し込んでください。無理に差し込もうとすると、UQ mobile Multi IC Card 01トレイが破損する場合があります。



5 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを閉じる

- ◎ UQ mobile Multi IC Card 01トレイの差し込みが不十分な場合は、正常に動作しないことがあります。
- ◎ 取り外したUQ mobile Multi IC Card 01トレイは紛失・破損しないようにご注意ください。

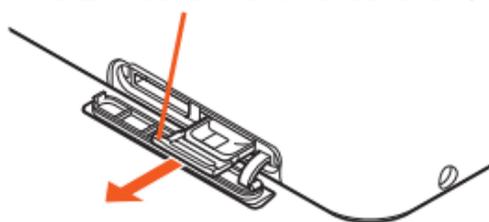
UQ mobile Multi IC Card 01を取り外す

UQ mobile Multi IC Card 01の取り外しは、本製品の電源を切ってから行ってください。

1 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを開ける(▶P.5)

2 UQ mobile Multi IC Card 01トレイに指をかけ、まっすぐにゆっくりと引き出す

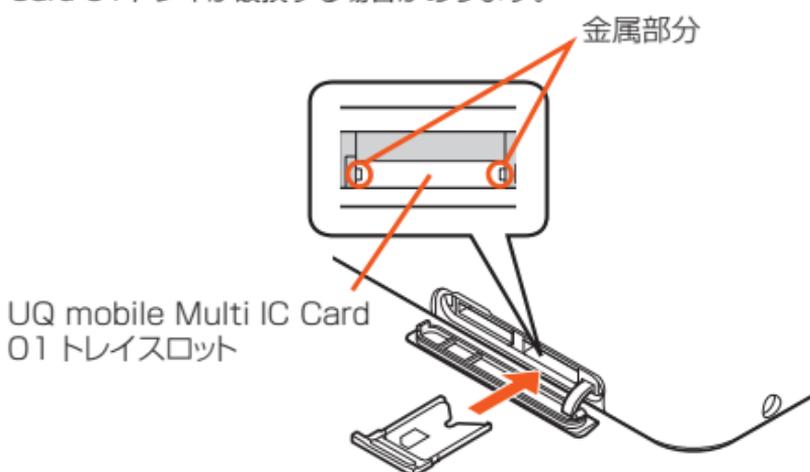
UQ mobile Multi IC Card 01トレイ



3 UQ mobile Multi IC Card 01トレイからUQ mobile Multi IC Card 01を取り外す

4 UQ mobile Multi IC Card 01トレイスロットの両側の金属部分に引っ掛からないように注意して、UQ mobile Multi IC Card 01トレイをUQ mobile Multi IC Card 01トレイスロットにゆっくり差し込む

UQ mobile Multi IC Card 01トレイスロットの位置をよく確認し、UQ mobile Multi IC Card 01トレイの向きに注意して、矢印の方向に奥まで差し込んでください。無理に差し込もうとすると、UQ mobile Multi IC Card 01トレイが破損する場合があります。



5 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを閉じる

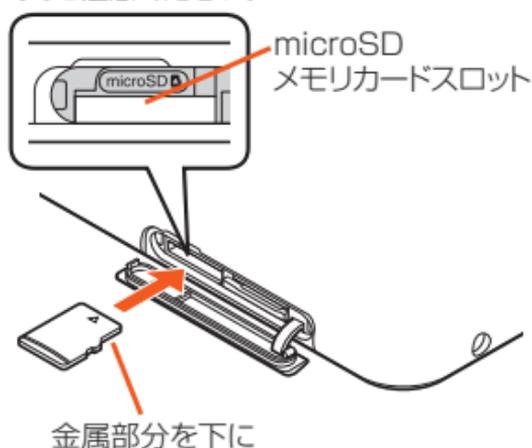
microSDメモリカードを利用する

microSDメモリカードを取り付ける

- 1 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを開ける(▶P.5)
- 2 microSDメモリカードをmicroSDメモリカードスロットにゆっくり差し込む

挿入方向を確認し、カチッと音がしてロックされるまで矢印の方向に差し込んでください。

また、ロックされる前に指を離すとmicroSDメモリカードが飛び出す可能性があります。ご注意ください。



- 3 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを閉じる

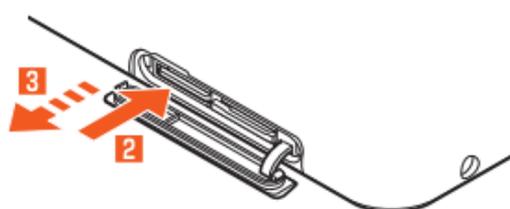
- ◎ microSDメモリカードには、表裏 / 前後の区別があります。無理に入れようとすると取り外せなくなったり、破損するおそれがあります。
- ◎ microSDメモリカードの端子部には触れないでください。

microSDメモリカードを取り外す

microSDメモリカードの取り外しは、microSDメモリカードのマウントを解除してから行ってください。データが壊れることや正常に動作しなくなることがあります。

- 1 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを開ける(▶P.5)
- 2 microSDメモリカードを奥へゆっくり押し込む

カチッと音がしたら、microSDメモリカードに指を添えながら手前に戻してください。microSDメモリカードが少し出てきますのでそのまま指を添えておいてください。強く押し込んだ状態で指を離すと、勢いよく飛び出す可能性がありますのでご注意ください。



- 3 microSDメモリカードをまっすぐにゆっくりと引き抜く
- 4 UQ mobile Multi IC Card 01 / microSDメモリカードカバーを閉じる

- ◎ microSDメモリカードを無理に引き抜かないでください。故障・データ消失の原因となります。
- ◎ 長時間お使いになった後、取り外したmicroSDメモリカードが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。

充電する

充電について

お買い上げ時は、内蔵電池は十分に充電されていません。必ず充電してからお使いください。

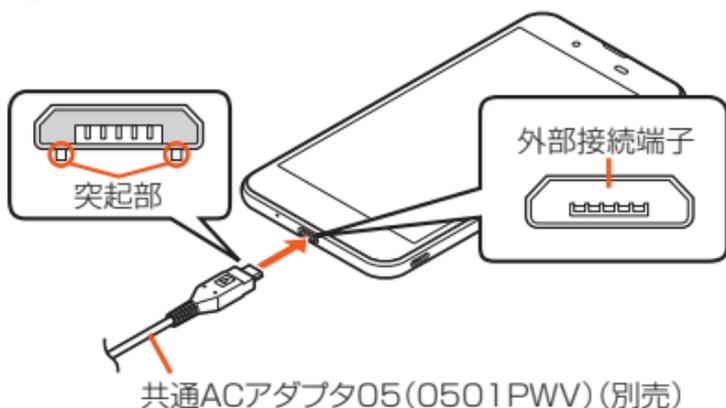
- 充電しても使用時間が極端に短いなど、機能が回復しない場合は内蔵電池の寿命の可能性があります。ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[端末情報]→[端末の状態]→[電池の状態]と操作すると、内蔵電池の充電能力を確認できます。
- 充電中は充電／着信ランプが赤色に点灯し、電池マークに⚡が重なって表示されます。約95%まで充電されると充電／着信ランプが緑色に点灯します。充電が完了すると、充電／着信ランプが消灯します。

- ◎ 充電中、本製品が温かくなることがありますが異常ではありません。
- ◎ 操作方法や使用環境によっては、本製品の内部温度が高くなり、熱くなることがあります。その際、安全のため充電が停止することがあります。
- ◎ カメラ機能などを使用しながら充電した場合、充電時間が長くなる場合があります。
- ◎ 指定の充電用機器(別売)を接続した状態で各種の操作を行うと、短時間の充電／放電を繰り返す場合があります。頻繁に充電を繰り返すと、内蔵電池の寿命が短くなります。
- ◎ 電池が切れた状態で充電すると、充電／着信ランプがすぐに点灯しないことがあります。充電は開始しています。
- ◎ 充電／着信ランプが赤色に点滅したときは、強制的に電源を切り(▶P.9)、電源を入れ直してください。それでも点滅する場合は、充電を中止して、表紙の「お問い合わせ先」までご連絡ください。
- ◎ 充電中、充電／着信ランプがまだ点灯しているときに充電をやめると、が表示されていても充電が十分にできていない場合があります。その場合は、ご利用可能時間が短くなります。

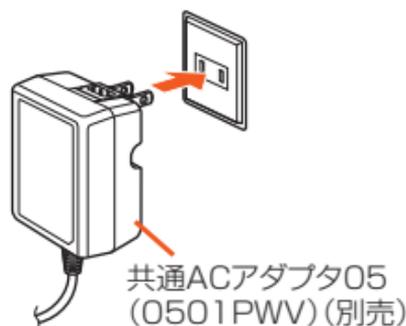
指定のACアダプタ(別売)を使って充電する

共通ACアダプタ05(0501PWV)(別売)を接続して充電する方法を説明します。

- 1** 本製品の外部接続端子に共通ACアダプタ05(0501PWV)(別売)のmicroUSBプラグを、向きを確認して矢印の方向に差し込む



- 2** 共通ACアダプタ05(0501PWV)(別売)の電源プラグをAC100Vコンセントに差し込む



- 3** 充電が終わったら、本製品の外部接続端子から共通ACアダプタ05(0501PWV)(別売)のmicroUSBプラグをまっすぐに引き抜く

- 4** 共通ACアダプタ05(0501PWV)(別売)の電源プラグをコンセントから抜く

- ◎ 本製品の電源を入れたままでも充電できますが、充電時間は長くなります。

パソコンを使って充電する

本製品をパソコンの充電可能なUSBポートに接続して充電する方法を説明します。

- 1 **パソコンが完全に起動している状態で、microUSBケーブル(市販品)をパソコンのUSBポートに接続**
- 2 **microUSBケーブル(市販品)を本製品に接続**

- ◎ USB充電を行った場合、指定のACアダプタ(別売)での充電と比べて時間が長くなる場合があります。
- ◎ 本製品の外部接続端子にmicroUSBプラグを差し込む場合は、突起部を下にしてまっすぐに差し込んでください。microUSBプラグを誤った向きに差し込むと、本製品の外部接続端子が破損することがあります。
- ◎ 電池が切れた状態で充電すると、充電/着信ランプが点灯しない場合があります。その場合は、指定のACアダプタ(別売)を使用して充電してください。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

- 1 **電源が切れた状態で ⏻ (2秒以上長押し)**

- ◎ 電源を入れてから「AQUOS」の表示が終了するまでの間は、タッチパネルの初期設定を行っているため、画面に触れないでください。タッチパネルが正常に動作しなくなる場合があります。

■ 電源を切る

- 1 **⏻ (2秒以上長押し)**

- 2 **[電源を切る]**

■ 再起動する

本製品の電源をいったん切り、再度起動します。

- 1 **⏻ (2秒以上長押し)**

- 2 **[再起動]**

■ 強制的に電源を切る

画面が動かなくなったり、電源が切れなくなったりした場合に、強制的に本製品の電源を切ることができます。

- 1 **⏻ (8秒以上長押し)**

バイブレータが振動した後、手を離すと電源が切れます。

- ◎ 強制的に電源を切ると、保存されていないデータは消失します。本製品が操作できなくなったとき以外は行わないでください。

■ セーフモードで起動する

本製品の電源をいったん切り、お買い上げ時に近い状態で起動します。

本製品の動作が不安定になった場合、お買い上げ後にインストールしたアプリケーションが原因の可能性があります。セーフモードで起動して症状が改善される場合、インストールしたアプリケーションをアンインストールすると症状が改善されることがあります。

- 1 **⏻ (2秒以上長押し)**

- 2 **[電源を切る]をロングタッチ→[OK]**

セーフモードで起動すると、画面下部に「セーフモード」と表示されます。セーフモードを終了するには再起動してください。

- ◎ 電源が切れているときは、 ⏻ (2秒以上長押し)で電源を入れ、SHARPロゴが表示されてからロック画面が表示されるまで ⏻ を押し続けると、セーフモードで起動することができます。
- ◎ セーフモードで起動する前に本製品のデータをバックアップすることをおすすめします。
- ◎ お客様ご自身で作成されたウィジェットが消える場合があります。
- ◎ セーフモードは通常の起動状態ではないため、通常ご利用になる場合はセーフモードを終了してください。

画面点灯／消灯について

⌘(⏻)を押すか、一定時間操作しないと画面が消灯します。

■ 画面を点灯する

1 画面消灯中に⌘(⏻)

- ◎ ポケットやかばんなどに入れる際は、画面を消灯してください。画面を点灯させたまま入れると、誤動作の原因となります。

■ 持つと画面点灯について

「持つと画面点灯」が設定されている場合は、本製品を持ち上げて静止すると、画面が点灯します。(お買い上げ時、この機能は有効になっています。)

- ◎ 次の場合などでは、点灯しないことがあります。
 - ・ 本製品を持ったまま動いている(歩行中や乗車中などの)場合
 - ・ 持ち上げる前やその後に本製品を動かし続けている場合
 - ・ 垂直または水平に持ち上げた場合
- ◎ 「持つと画面点灯」の使いかたは、「体験しよう！」アプリで確認することができます。
ホーム画面に「アプリシート」を表示→[体験しよう！]→[持つと画面点灯]

ロック画面について

画面を点灯するとロック画面が表示されます。

見るだけ解除機能を利用して、ロック画面を見るだけで、インカメラで目をスキャン(認識)し、すぐに画面ロックを解除することができます。



《ロック画面》

① 壁紙

② お知らせエリア

不在着信／新着Eメール／新着SMSなどの通知がポップアップ表示されます。通知をダブルタップすると対応した画面が表示されます。

お知らせエリアを下にドラッグすると、通知の一覧が表示され、通知をタップすると対応した画面が表示されます。

③ ショートカット

「」を画面上部にスライドするとショートカットが表示されます。

④ 時計／エモバーエリア

⑤ 画面ロック

「」を画面上部にスライドすると画面ロックを解除できます。

- ・ 「画面ロック」にパスワードなどを設定しているときは  が表示されます。

⑥ カメラ起動

「」を画面上部にスライドするとSHカメラを起動します。

Feel Homeを利用する

Feel Homeはデスクトップシート、アプリシート、ドックで構成されたホーム画面です。

デスクトップシートではウィジェット/ショートカット、アプリシートではアイコンをタップすると機能を利用できます。ドックにはお気に入りアプリのショートカットを登録することができます。

- ホーム画面を左右にスライド/フリックすることで、デスクトップシート/アプリシートを切り替えることができます。

シートの切り替えイメージ



■ Feel Homeの見かた



① ステータスバー

② デスクトップシート/アプリシート

③ ドック

アプリケーションのショートカットを登録して、すばやく起動させることができます。

④ ナビゲーションバー

⑤ ガイドタブ

デスクトップシート/アプリシートを切り替えたときに、シート名を表示します。

⑥ ページインジケータ

デスクトップシート/アプリシートの現在の表示位置を表示します。

○ デスクトップシート/アプリシートを上下にスライド/フリックすると、ページを切り替えることができます。

○ **[Google]**をロングタッチするとGoogle™アプリが起動し、本体メモリ内やウェブサイトの情報を検索できます。

- 次の操作で**[Google]**をロングタッチして起動するアプリを変更できます。
ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[アプリ]→[設定]→[既定のアプリ]→[アシストと音声入力]→[アシストアプリ]→起動するアプリを選択

ステータスバーを利用する

アイコンについて

ステータスバーの左側には不在着信、新着メールや実行中の動作などをお知らせするお知らせアイコン、右側には本製品の状態を表すステータスアイコンが表示されます。

■ 主なお知らせアイコン

アイコン	概要
	不在着信あり
	新着Eメール、新着SMSあり
	新着PCメールあり
	新着Gmail™あり
	発信中、通話中、着信中
	VoLTE対応機種と高音質通話中
	保留中
	伝言メモ情報あり
	本体メモリの空き容量低下
	利用可能なアップデートあり
	アプリケーションのインストール完了
	ソフトウェア更新情報あり
	まとめられたアイコンあり

■ 主なステータスアイコン

アイコン	概要
	時刻
	電池レベル状態 ~ : 残量表示 : 残量なし ・充電中は電池マークに が重なって表示されます。 ・電池マークの左に電池残量が%で表示されます。
	機内モード設定中
	電波の強さ(受信電界) ~ : レベル表示 : 圏外 ・ネットワークを示すアイコンが左上に表示されます。 : LTE/WiMAX 2+使用可能* ・通信中は が重なって表示されます。
	ローミング中
	マナーモード状態 : 通常マナー : サイレントマナー : アラームのみ : 優先する通知のみ
	ハンズフリーで通話中
	通話中のマイクを「消音」に設定中
	伝言メモ設定中 : 伝言メモなし : 伝言メモあり(1~9件) : 伝言メモが10件

*「LTE」「WiMAX 2+」の2つのネットワークをご利用いただけます。いずれの場合も画面表示は「4G」となります。回線の混雑状況等に応じ、より混雑が少ないと当社が判断したネットワークに接続します。

お知らせ／ステータスパネルを利用する

お知らせ／ステータスパネルでは、お知らせアイコンやステータスアイコンの確認や対応するアプリケーションの起動ができます。
また、マナーモードやのぞき見ブロックなどを設定できます。

■ お知らせパネルを表示する場合

1 ステータスバーを下にスライド

■ ステータスパネルを表示する場合

1 ステータスバーを2本の指で下にスライド

「」をロングタッチしてもステータスパネルを表示することができます。

■ お知らせ／ステータスパネルの見かた



《お知らせパネル》

《ステータスパネル》

① お知らせ

本製品の状態や通知の内容を確認したり、アドレス帳プラスの設定を行うことができます。通知をタップすると対応するアプリケーションを起動できます。

- 通知を左右にフリックすると削除できます。ただし、通知によっては削除できない場合もあります。
- 表示範囲を上スライドすると、隠れているお知らせを表示できます。
- 通知を2本の指で上下にスライドまたはピンチイン／ピンチアウトすると詳細表示と簡易表示を切り替えられます。
- 通知をロングタッチ→[]と操作すると、アプリの通知を設定できます。

② すべて消去

タップすると通知がすべて消去されます。ただし、通知によっては削除できない場合もあります。

③ 明るさ調整バー

バーを左右にスライドして明るさを設定します。

④ 機能ボタン

よく使う機能の設定を変更することができます。操作方法は機能によって異なります。

⑤ 設定

タップすると本製品について、各種設定を行います。

⑥ カスタマイズ

表示する機能ボタンを変更したり並べ替えたりできます。

⑦ 電池残量

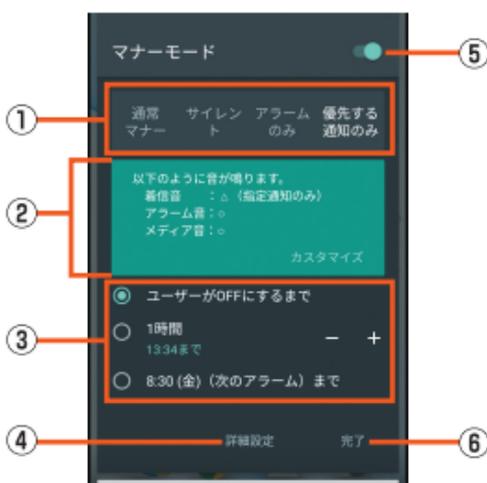
タップすると電池利用状況を確認できます。

◎ 画面を上下にスライド、または画面上部をタップすると、お知らせパネル／ステータスパネルを切り替えられます。

■ マナーモードを設定する

公共の場所で周囲の迷惑とならないように設定します。

1 ステータスパネルを表示→機能ボタンの「マナーモード」をタップ



《マナーモード設定画面》

① マナーモードの種類

② 動作説明

③ 解除までの期間

④ 詳細設定

⑤ ON／OFF設定

タップするとマナーモードを解除します。

⑥ 完了

マナーモードの設定を終了します。

アプリの権限を設定する

本製品の機能や情報にアクセスするアプリ／機能を初めて起動すると、アクセス権限の許可をリクエストする確認画面が表示されます。

例：アルバムを起動した場合

1 「アプリに必要な許可」の確認画面→[次へ]

2 [許可しない]／[許可]

通常は「許可」をタップし、機能の利用を許可してください。
利用する機能が複数ある場合、以降も同様に操作してください。

■ 利用する機能について設定する

利用する機能について、次の手順で設定することもできます。

■ アプリごとに利用する機能を設定する

1 ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[アプリ]

2 アプリを選択→[許可]

3 機能を選択

■ 機能ごとに利用するアプリを設定する

1 ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[アプリ]→
[⚙️]→[アプリの権限]

2 機能を選択

3 アプリを選択

◎ 許可をしないとアプリ／機能を起動できない場合や、機能の利用が制限される場合があります。

◎ アプリ／機能によっては、許可についての説明画面が表示される場合があります。また、確認画面が複数回表示される場合や、表示が異なる場合があります。表示内容をよくご確認のうえ、画面に従って操作してください。

◎ 本書では、確認画面の表示の記載については省略している場合があります。

ソフトウェアキーボードを切り替える

1 文字入力画面→[⚙️]→[入力方式]→[QWERTYキーボード]／[12キーボード]

自分の電話番号を確認する

1 ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[プロフィール]

機内モードを設定する

1 ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[もっと見る]→[機内モード]

ソフトウェアを更新する

本製品は、ソフトウェア更新に対応しています。

1 ホーム画面に「アプリシート」を表示→[設定]→[端末情報]→[システムアップデート]

ソフトウェア更新が必要かどうかの確認を開始します。「アップデートをチェック」をタップして確認します。ソフトウェア更新が必要な場合は、ソフトウェア更新用データをダウンロードし、インストールすることができます。

- ステータスバーに  が表示されている場合は、ステータスバーを下にスライドし、通知をタップして画面に従って操作してください。

2 [ダウンロード]→[再起動してインストール]

■ ご利用上の注意

- パケット通信を利用して本製品からインターネットに接続するとき、データ通信に課金が発生します。Wi-Fi®でのご利用をおすすめします。
- ソフトウェアの更新が必要な場合は、端末上などでお客様にご案内させていただきます。詳細内容につきましては、表紙の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。
- 更新前にデータのバックアップをされることをおすすめします。
- ソフトウェア更新を実行すると、更新前と更新後に本製品を再起動します。
- ソフトウェア更新に失敗したときや中止されたときは、ソフトウェア更新を実行し直してください。
- ソフトウェア更新に失敗すると、本製品が使用できなくなる場合があります。本製品が使用できなくなった場合は、表紙の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。
- 十分に充電してから更新してください。電池残量が少ない場合や、更新途中で電池残量が不足するとソフトウェア更新に失敗します。
- 電波状態をご確認ください。電波の受信状態が悪い場所では、ソフトウェア更新に失敗することがあります。
- ソフトウェアを更新しても、本製品に登録された各種データ（電話帳、メール、静止画、音楽データなど）や設定情報は変更されません。ただし、本製品の状態（故障・破損・水濡れなど）によってはデータの保護ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- 国際ローミング中は、ソフトウェア更新の機能を利用できない場合があります。

ソフトウェア更新実行中は、次のことは行わないでください

- ソフトウェアの更新中は、移動しないでください。

ソフトウェア更新実行中にできない操作について

- ソフトウェアの更新中は操作できません。110番（警察）、119番（消防機関）、118番（海上保安本部）へ電話をかけることもできません。また、アラームなども動作しません。

故障とお考えになる前に

故障とお考えになる前に次の内容をご確認ください。

こんなときは	ご確認ください
電池を利用できる時間が短い	<ul style="list-style-type: none"> ● (圏外)が表示される場所での使用が多くありませんか？(▶P.12) ● 内蔵電池が寿命となっていませんか？電池の状態を確認してください。(▶P.8) ● 十分に充電されていますか？(▶P.8) ● 使用していない機能を停止してください。(▶P.12)
電話がかかけられない	<ul style="list-style-type: none"> ● UQ mobile Multi IC Card 01が挿入されていますか？(▶P.5) ● 「機内モード」が設定されていませんか？(▶P.14) ● 電源は入っていますか？(▶P.9)
電話がかかってこない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電波は十分に届いていますか？(▶P.12) ● サービスエリア外にいませんか？(▶P.12) ● 「機内モード」が設定されていませんか？(▶P.14) ● 電源は入っていますか？(▶P.9) ● UQ mobile Multi IC Card 01が挿入されていますか？(▶P.5)
相手の方の声が聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> ● 受話口を耳でふさいでいませんか？受話口が耳の穴に当たるようにしてください。
microSDメモリカードを認識しない/目的のデータが見つからない	<ul style="list-style-type: none"> ● microSDメモリカードは正しく取り付けられていますか？(▶P.7) ● 本体メモリにデータを保存していませんか？microSDメモリカード以外に本体メモリにもデータを保存できます。
キー/タッチパネルの操作ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源を切り、電源を入れ直してみてください。 ● 電源は入っていますか？(▶P.9)
充電ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定の充電用機器(別売)の電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていますか？(▶P.8)
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ● 内蔵電池は充電されていますか？(▶P.8) ● [[Ⓜ]]を長押ししていますか？(▶P.9)
操作できない/画面が動かない/電源が切れない	<ul style="list-style-type: none"> ● [[Ⓜ]]を8秒以上長押しし、バイブレータが振動した後、手を離すと強制的に電源を切ることができます。しばらくしてから電源を入れ直してください。(▶P.9)
タッチパネルで意図した通りに操作できない	<ul style="list-style-type: none"> ● 爪の先で操作したり、異物を挟んだ状態で操作したりしていませんか？ ● 再起動してください。(▶P.9)
画面をタップしたとき/キーを押したときの画面の反応が遅い	<ul style="list-style-type: none"> ● 本製品に大量のデータが保存されているときや、本体メモリとmicroSDメモリカードの間で容量の大きいデータをやりとりしているときなどに起きる場合があります。
UIMカードエラーや挿入されていない旨のメッセージが表示される	<ul style="list-style-type: none"> ● UQ mobile Multi IC Card 01が挿入されていますか？(▶P.5)
電源が勝手に切れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池が切れていませんか？(▶P.8)
電源起動時のロゴ表示中に電源が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池が切れていませんか？(▶P.8)
● (圏外)が表示される	<ul style="list-style-type: none"> ● 電波は十分に届いていますか？(▶P.12) ● サービスエリア外にいませんか？(▶P.12) ● 内蔵アンテナ付近を手でおおっていませんか？(▶P.4) ● UQ mobile Multi IC Card 01が挿入されていますか？(▶P.5)
ディスプレイ、充電/着信ランプは点灯、点滅するが着信音が鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> ● マナーモードに設定されていませんか？(▶P.13)
充電してくださいなどと表示された	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池残量がほとんどありません。(▶P.8)
電話をかけたときに受話口から「ブーッ、ブーッ、ブーッ…」と音がしてつながらない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電波は十分に届いていますか？(▶P.12) ● サービスエリア外にいませんか？(▶P.12) ● 無線回線が非常に混雑しているか、相手の方が通話中ですのでおかけ直しください。

上記の各項目を確認しても症状が改善されないときは、以下のUQ mobileホームページのお客さまサポートでご案内しております。

<http://www.uqwimax.jp/support/>

アフターサービスについて

修理を依頼される前に、本書の「故障とお考えになる前に」をご覧ください。それでも改善されない場合は、表紙の「お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。

主な仕様

■本体(SHV37)

ディスプレイ	約5.0インチ、約1,677万色、IGZO、1,280×720(HD)
質量	約137g(内蔵電池含む)
サイズ (幅×高さ×厚さ)	約71mm×143mm×8.3mm(最厚部:約8.4mm)
メモリ(内蔵)	RAM:約2GB Internal Storage:約16GB
連続通話時間(国内)	約1,440分
連続通話時間(海外(GSM))	約1,070分
連続待受時間(国内)	約950時間
連続待受時間(海外(GSM))	約1,070時間
連続テザリング時間	約900分
Wi-Fi®テザリング 最大接続数	10台
充電時間	共通ACアダプタ05(0501PWV)(別売)使用時: 約140分
撮影素子	アウトカメラ CMOSイメージセンサー インカメラ CMOSイメージセンサー
有効画素数	アウトカメラ 約1,310万画素 インカメラ 約500万画素
Bluetooth®機能	通信方式:Bluetooth®標準規格Ver.4.2 出力:Bluetooth®標準規格Power Class 1 通信距離*1:見通しの良い状態で10m以内 対応Bluetooth®プロファイル*2:GATT、HSP、HFP、A2DP、AVRCP、OPP、SPP、PBAP*3、HID、PAN、PAN NAP、PANU、aptX、HOGP*4、DUN*5 使用周波数帯:2.4GHz帯
ネットワーク環境	IEEE802.11b/g/n(2.4GHz)準拠
インターフェース	microUSB端子、3.5φ(4極)イヤホンマイク端子(対応イヤホン:3極ヘッドホン(Lch/Rch/GND)、4極マイク付きイヤホン(Lch/Rch/GND/MIC))

*1 通信機器間の障害物や電波状態により変化します。

*2 Bluetooth®機器同士の使用目的に応じた仕様のことで、Bluetooth®標準規格で定められています。

*3 電話帳データの内容によっては、相手側の機器で正しく表示されない場合があります。

*4 Bluetooth®標準規格Ver.4.0に対応したプロファイルとなります。

*5 一部のカーナビゲーションシステムのみに対応しています。

◎ 連続通話時間・連続待受時間は、充電状態・気温などの使用環境・使用場所の電波状態・機能の設定などによって半分以下になることもあります。

携帯電話機の比吸収率(SAR)について

この機種【SHV37】の携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。

この携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準^(※1)ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)で定めており、携帯電話機に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この携帯電話機の頭部におけるSARの最大値は0.555W/kg^(※2)、身体に装着した場合のSARの最大値は0.568W/kg^(※2)です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。

携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。一般的には、基地局からの距離が近いほど、携帯電話機の出力は小さくなります。

この携帯電話機は、頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用するなどして、身体から1.5センチ以上離し、かつその間に金属(部分)が含まれないようにしてください。このことにより、本携帯電話機が国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合していることを確認しています。

世界保健機関は、『携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。』と表明しています。

さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_japanese.htm

※1 技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。

※2 この値は同時に使用可能な無線機能を含みます。

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

○ 総務省のホームページ:

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/ele/index.htm>

○ 一般社団法人電波産業会のホームページ:

<http://www.arib-emf.org/O1denpa/denpa02-02.html>

○ シャープのホームページ:

<http://k-tai.sharp.co.jp/support/sar/>

CE Declaration of Conformity



Hereby, SHARP CORPORATION declares that the radio equipment type SHV37 is in compliance with Directive 2014/53/EU.
The full text of the EU declaration of conformity is available at the following internet address:
<http://www.sharp.co.jp/k-tai/>

Manufacturer's Address:

Sharp Corporation, IoT Communication BU
2-13-1 Iida Hachihonmatsu
Higashihiroshima-City
Hiroshima,
739-0192
Japan

• Description of accessories

Headset, Handsfree	φ 3.5 audio jack, Bluetooth.
microUSB cable	For Charging, Peripherals, etc.
microSD memory card	microSD/microSDHC/microSDXC
nano UIM card	The card provided by the Carrier. The handset is "Unlocked" Smartphone.

• Frequency range of supported bands in EU

GSM 900	Tx 880.2 to 914.8 MHz Rx 925.2 to 959.8 MHz
DCS 1800	Tx 1710.2 to 1784.8 MHz Rx 1805.2 to 1879.8 MHz
WCDMA FDD I	Tx 1922.4 to 1977.6 MHz Rx 2112.4 to 2167.6 MHz
LTE Band 1	Tx 1922.5 to 1977.5 MHz Rx 2112.5 to 2167.5 MHz
LTE Band 3	Tx 1710.7 to 1784.3 MHz Rx 1805.7 to 1879.3 MHz
Bluetooth	Tx 2402 to 2480 MHz Rx 2402 to 2480 MHz
WLAN 2.4 GHz	Tx/Rx 2412 to 2472 MHz (Bandwidth: 20 MHz only)
NFC	Tx/Rx 13.56 MHz
GPS	Rx L1 (1575.42 MHz)

• Maximum transmit power

GSM 900	+33 dBm (Power Class4)
DCS 1800	+30 dBm (Power Class1)
WCDMA FDD I	+24 dBm (Power Class3)
LTE Band 1	+23 dBm (Power Class3)
LTE Band 3	+23 dBm (Power Class3)
Bluetooth	+4.3 dBm (Power Class1)
WLAN 2.4 GHz	+11.0 dBm
NFC	-10 dBμA/m at 10 m

■ Mobile Light

Do not point the illuminated light directly at someone's eyes.

Be especially careful not to shoot small children from a very close distance.
Do not use Mobile light near people's faces. Eyesight may be temporarily affected leading to accidents.

■ AC Adapter

Any AC adapter used with this handset must be suitably approved with a 5Vdc SELV output which meets limited power source requirements as specified in EN/IEC 60950-1 clause 2.5.

■ Battery - CAUTION

Use specified Charger only.

Non-specified equipment use may cause malfunctions, electric shock or fire due to battery leakage, overheating or bursting.

The battery is embedded inside the product. Avoid removing the embedded battery since this may cause overheating or bursting.

Do not dispose of the product with ordinary refuse. Follow the local disposal regulations.

Charge battery in ambient temperatures between 5°C and 35°C; outside this range, battery may leak/overheat and performance may deteriorate.

■ Volume Level Caution



To prevent possible hearing damage, do not listen at high volume levels for long periods.

■ Headphone Signal Level

The maximum output voltage for the music player function, measured in accordance with EN 50332-2, is 119.0 mV.

■ Stand-by Mark

 : This symbol means the stand-by on/off.

■ European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.

The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear is 0.510 W/kg[※] and when worn on the body is 1.340 W/kg[※].

For body-worn operation, this mobile device has been tested and meets the RF exposure guidelines when used with an accessory containing no metal and positioning the handset a minimum of 5 mm from the body. Use of other accessories may not ensure compliance with RF exposure guidelines.

As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head.

※ The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.
- The device is electronically labeled and the FCC ID can be displayed via the About phone & the Authentication under the Settings menu.

Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help and for additional suggestions.

Warning

The user is cautioned that changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.

Highest SAR value:

Model	SHV37
FCC ID	APYHRO00243
At the Ear	0.69 W/kg
On the Body	0.94 W/kg

This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 1.0 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.0 cm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of belt clips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found at <http://transition.fcc.gov/oet/ea/fccid/> under the Display Grant section after searching on the corresponding FCC ID (see table above).

Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at <http://www.fcc.gov/encyclopedia/radio-frequency-safety>.